

日本東亞同文書院編

(第四十八冊)

中國省別全志

綫裝書局

第四十八冊

第六卷 陝西省（一）昭和十八年 一九四三年 東亞同文會……………一

第六卷

陝西

省
(一)

昭和十八年

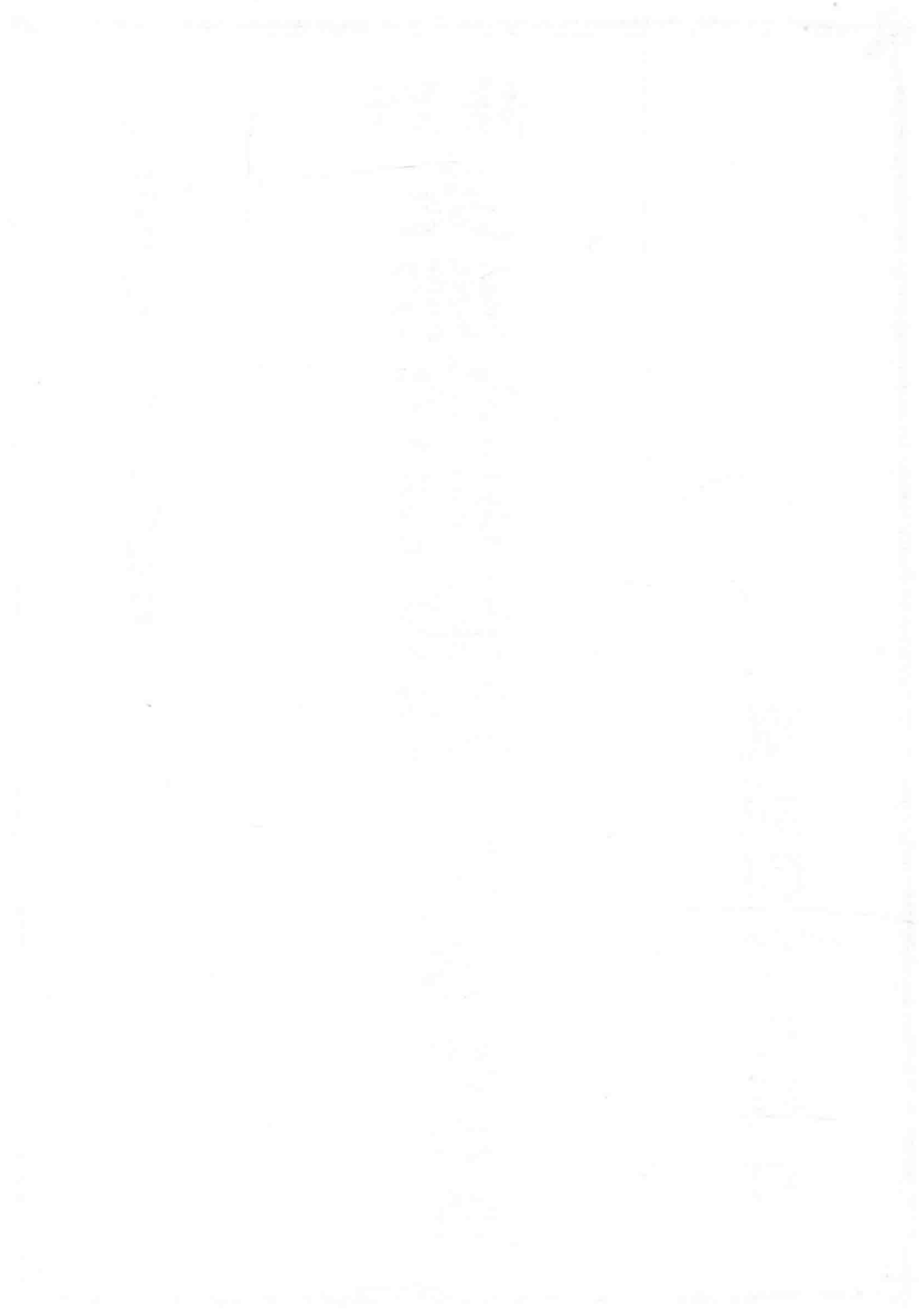
一九四三年

東亞同文會

支那省別全誌刊行會編纂

新修
支那省別全誌
第六卷 陝西省

東亞同文會發行



凡 例

一、重慶政權にとり西南地區開發の中心對象である四川・雲南・貴州三省の上梓を終り、茲に新修支那省別全誌第六卷として陝西省を刊行することとした。

二、所謂西北支那問題の中心は、先づ政治・軍事の重慶化を完成し、且西北路線の強化により所謂援蔣物資の疏通を企圖するものであるが、而もまた産業經濟の開發は、長期抗戰力増強に必要な自給自足の體制を確立するための基礎として、彼等の最も緊急視しつゝある問題である。而してこれが完成には巨額の資金と卓越した技術とを必要とするもので、決して容易の業ではなく、その成功も多少危まれてはゐるが、これが成果については苟も支那問題に関心を持つ者の等しく知らんと欲する所である。而してこの間陝西省の地位は、元來西北地區の限界そのものゝ表現が極めて漠然たるもので、論者によりて廣狹二義の解釋があり、狹義に解する人は陝西省はこれを寧夏省と共に北支地區に編入して西北地區より除外してゐるが、少くとも陝西省が寧夏省と共に、現在重慶政權が西北開發の中心對象としてゐる甘肅・新疆・青海三省の前衛省たることに於いては何人も異論のないものと確信する。即ち本刊行會が甘肅・新疆・青海諸省の編纂に先立ち第六卷陝西省を上梓した所以であつて、第七卷は甘肅・寧夏兩省を一纏めとして刊行し、第八卷は即ち新疆省である。

三、本書の編纂に際し、第三編都市に附記せる支那名羅馬字綴は主として劉鈞仁著國立北平研究院出版の中國地名大辭典（民國十九年八月初版）に據つた。また各縣城圖は資料蒐集の可能なる限り最近の地圖を参照したが、

新資料を得ること不可能なるものは専ら舊支那省別全誌第七卷陝西省のものより取材した。

四、本書の編纂に携はつた編輯員及びその擔任部門は左の通りである。

編輯長

馬場鉄太郎

編輯擔任 第一編 自然環境（地理的特相—概觀・氣象及水文）

村上計二郎

同 同 （動植物）

村田懋麿

同 第二編 人文（沿革・民族と文化・總説・人口と住民・人物）

村田懋麿

同 同 （教育）

村上計二郎

同 第三編 都市

高橋山太郎

同 第四編 産業資源（農産・林産・畜産・水産・藥材）

吉本 仁

同 同 （鑛産資源）

村上計二郎

同 第五編 商業貿易

高橋山太郎

同 第六編 財政・金融及度量衡

櫻山 弘

同 第七編 交通運輸 附郵政・電政及航空

山根權二

同 第八編 歴史及名勝古蹟（名勝古蹟）

村上計二郎

同 地圖・圖版

渡部安五郎

同 索引

近藤 清

同 同

渡部安五郎

同 同

小代義正

尙ほ東亞同文書院大學教授小竹文夫、成宮嘉造、坂本一郎三氏及び上海自然科學研究所研究員尾崎金右衛門氏に委嘱し、その執筆を得たことは本刊行會の深く多とする所であつて、左にその擔當部門を掲げて深甚の謝意を表する。

第一編 自然環境（第一章第二節地形及地質）

尾崎金右衛門

第二編 人 文（第二章行政制度）

成宮嘉造

同 （第三章第四節言語）

坂本一郎

第八編 歴史及名勝古蹟（第一章歷史）

小竹文夫

五、本書編輯資料の蒐集に關しては在南京・行政院文物保管委員會圖書專門委員會福崎峰太郎・梅田深雨氏及び在上海・中支那振興株式會社調查課員馬場滋氏の勞に負ふ所多く、更に蒐集資料の整理その他については小代義正・岩城正雄・渡部安五郎・近藤清・宇田千代諸氏の努力に俟ち、また校正に關しては小代義正・渡部安五郎・近藤清・保井耕之の諸氏に多大の勞を煩はせり、なほ地圖作製に際しては吉本仁・村上計二郎兩氏の指導協力を得たり、茲に併せて謝意を表する。

東亞同文書院大學名譽教授

編輯長 馬場 敏太郎

新修支那省別全誌

第六卷 陝西省

目次

第一編 自然環境

第一章 地理的特相

第一節 概觀

第一款 位置及境界

第二款 面積

第二節 地形及地質

第一款 地形

第一 陝北盆地地區

第二 渭河地溝帶地區

第三 陝南地區

目次

一
一
一
四
七
七
七
八
八

目次

二

第二款 山脈

一、秦嶺山脈區

第一 陝北盆地

第二 陝南地區

第三款 水系

第一 陝北盆地

第二 渭河地溝帶區

第三 陝南地區

第四款 地質

第一 陝西盆地

一、奧陶紀石灰岩 二、二疊石炭紀夾炭層 三、三疊紀層 四、侏羅紀層 五、白堊紀層

紀層 六、第三紀及第四紀層

第二 渭河地溝帶區

一、始新統地層 二、鮮新統地層 三、洪積統地層

第三 陝南地區

一、古期前寒武利亞紀層(秦嶺) 二、震旦紀及寒武利亞奧陶紀層 三、ゴトランド紀層

四、泥盆紀層 五、石炭紀層 六、二疊紀層 七、三疊侏羅紀層 八、白堊紀層

九、洪積世紀層 一〇、火成岩類

第五款 地史及地文	六
-----------	---

- 一、北嶺期 二、唐縣期 三、保德期 四、汾河期 五、三門期 六、清水期
七、馬蘭期 八、板橋期

第二章 氣象及水文	三〇
-----------	----

第一節 氣候	三〇
--------	----

第一款 氣候區	三〇
---------	----

第二款 氣候型	三一
---------	----

第三款 氣候因子	三一
----------	----

第一節 氣候要素	三二
----------	----

第一款 氣溫	三二
--------	----

第二款 四季	三二
--------	----

第三款 氣壓と風	三六
----------	----

第四款 降雨	四〇
--------	----

第五款 雲量	四八
--------	----

第六款 蒸發量	四九
---------	----

第七款 濕度 五〇

第八款 降雪期 五一

第九款 降霜期 五二

第十款 結冰期 五三

第三節 水文||水位・流量・含沙量 五四

第四節 測候機關及旱水害 五七

第一款 測候機關 五七

第二款 旱災及水害 五九

第三章 動植物 六二

第一節 植物 六二

第二節 動物 六六

第一款 獸類 六六

第二款 鳥類 六九

第三款 爬虫類と兩棲類 六九

第四款 魚類 七五

第三節 藥材	六八
--------	----

第二編 人文

第一章 沿革	八五
--------	----

第一節 總說	八五
--------	----

第二節 清代及民國成立後の行政區劃	八六
-------------------	----

第三節 陝北の行政區劃	九五
-------------	----

第二章 行政制度	一〇二
----------	-----

第一節 省縣市區行政制度	一〇三
--------------	-----

第一款 序說	一〇四
--------	-----

第二款 重慶區行政	一〇五
-----------	-----

第一 省の行政組織	一〇五
-----------	-----

- 一、總說
- 二、省政府 (一)性質 (二)組織 (三)附屬機關
- 三、省臨時參議會 (一)成立の史的過程と存立目的 (二)組織 (三)權限 (四)各參議員の權限 (五)參議會構成者の特別權利義務 (六)活動期と駐會委員 (七)議事法 (八)省臨時參議會秘書處

第二 西京市の行政組織

- 一、總説 二、西京籌備委員會の組織

第三 行政警察專員公署の組織

- 一、道制の廢止 二、行政警察專員公署の設置 (一)總説 (二)行政警察區の劃定 (三)權限 (四)專員兼任制と補助機關 (五)經費 三、陝北行政警察專員制の改革案 (一)組織の擴大強化 (二)權限の擴大強化 (三)行政警察區の改劃

第四 縣以下各級行政組織

- 一、新縣制施行前の縣以下各級行政組織 (一)總説 (二)縣の行政組織 (三)區の行政組織 附 鄉鎮閭鄰の行政組織 (四)保甲制 二、新縣制に於ける縣以下各級行政組織 (一)總説 (二)本省縣各級組織綱要實施計劃 (三)新縣制實施に於ける若干の重要問題

第二節 警察行政制度 附 國民兵兩制

第一款 總説

第二款 事變前の概況

第一 總説

第二 各級公安局の組織

第三 警察官吏の任用資格及養成訓練

第四 保衛團